

日本体育測定評価学会 学会大会「優秀発表」一覧

学会大会「優秀発表」は、日本体育測定評価学会の学会大会における研究発表の内、機関誌編集委員などの投票により総演題数の上位1割程度(同順位の場合、その割合を超えることがある)に選ばれた研究発表であります。学会大会「優秀発表」は学会ホームページで公表され、研究代表者(演者)には郵送により賞状を授与します(第10回記念大会以降)。学会大会「優秀発表」に選ばれた研究発表の研究内容が論文化されて日本体育測定評価学会編集の和文機関誌『体育測定評価研究』における掲載が許可された際には、学会大会における「優秀発表」であることを付記して公表されます。

第7回大会【開催日・場所：2007年12月2日・東京医科大学病院／総演題数：16題】

○村瀬智彦(愛知大学) 共同研究者：春日晃章, 佐藤敏郎

「体力測定参加の同意判断に重要視される内容と程度の差の検討—女子大学生が自覚する体力特性の違いによる比較—」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究, 第8巻, 39-45頁, 2009年3月発行〉

○大杉貴康(金沢大学大学院) 共同研究者：出村慎一, 長澤吉則, 佐藤 進, 北林 保, 山本 桂

「生徒が考える体育授業の構成要因の検討—因子構造, 因子相互間の関連性, および性差の観点から—」

第8回大会【開催日・場所：2009年3月8日・武蔵野調理師専門学校／総演題数：14題】

○宮口和義(石川県立大学) 共同研究者：出村慎一, 青木宏樹, 出村友寛

「幼児の基礎運動能力に貢献するラダー運動とは」

○山田孝禎(福井工業高等専門学校) 共同研究者：出村慎一, 中田征克, 北林 保

「椅子立ち上がり動作時における上肢の補助が下肢への負荷に及ぼす影響」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究, 第9巻, 33-38頁, 2010年3月発行〉※英文による掲載

第9回大会【開催日・場所：2010年2月28日・日本医科大学新丸子校舎／総演題数：22題】

○青木宏樹(金沢大学大学院) 共同研究者：出村慎一, 山次俊介, 宮口和義

「把握動作時と肘屈曲動作時の間欠的パワー発揮の低下特性の違い」

○宮口和義(石川県立大学) 共同研究者：出村慎一, 春日晃章, 松田繁樹, 青木宏樹

「幼児期の運動能力に及ぼすラダー運動の効果」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究, 第10巻, 11-19頁, 2011年3月発行〉

○中野貴博(名古屋学院大学) 共同研究者：春日晃章, 村瀬智彦

「小学生における生活習慣管理能力の変化—生活習慣項目の項目分析結果を用いて—」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究, 第10巻, 41-49頁, 2011年3月発行〉

第10回記念大会【開催日・場所：2011年2月27日・石川県政記念しいのき迎賓館／総演題数：39題】

○國土将平(神戸大学)

「小学生におけるドッジボール投げの運動観察法による動作因果モデルの検討」

○中田由夫(筑波大学)

「3軸加速度計を用いた身体活動量評価における設定条件と採用データ数」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究，第11巻，57-62頁，2012年3月発行〉

- 佐藤 進（金沢工業大学） 共同研究者：出村慎一，出村友寛，横谷智久，佐藤敏郎
「転倒リスクプロフィール評価法の提案と健常高齢者の転倒リスク特性」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究，第11巻，49-55頁，2012年3月発行〉

- 鈴木宏哉（東北学院大学） 共同研究者：鈴木和弘，小磯 透
「小学生の不定愁訴に関連する体力及び運動生活習慣の複合要因」
- 辻 大士（筑波大学大学院） 共同研究者：三ツ石泰大，大藏倫博
「縦断調査による地域在住高齢者を対象とした椅子立ち上がり動作時の地面反力の有用性」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究，第11巻，13-23頁，2012年3月発行〉

第11回大会〔開催日・場所：2012年2月26日・日本医科大学新丸子校舎／総演題数：29題〕

- 稲垣 敦（大分県立看護科学大学）
「特定高齢者および要支援1・2高齢者の運動機能：運動機能向上標準プログラム（大分県版）の効果検証調査より」
- 辻 大士（筑波大学大学院） 共同研究者：大藏倫博
「5m連続減産歩行テストは通常歩行テストより優れた転倒予測ツールとなりうるか？」

〈論文掲載巻頁：体育測定評価研究，第12巻，9-15頁，2013年3月発行〉

- 山次俊介（福井大学） 共同研究者：出村慎一，長澤吉則，佐藤敏郎
「ラバーバンドトレーニング及びラダー運動は在宅高齢女性の敏捷的なクロスステップを改善する」

第12回大会〔開催日・場所：2013年2月23日・湘南とつかYMCA／総演題数：41題〕

- 岡本直輝（立命館大学）
「ジュニアサッカースクールにおける「鬼ごっこ」の特性」
- 國土将平（神戸大学）
「小学生における走運動の動作因果関係を考慮した評価モデルの試案」
- 高橋信二（東北学院大学）
「個人特性を考慮した経時データの解析方法」
- 中田由夫（筑波大学）
「3軸加速度計Active Style Proから評価した日米の身体活動ガイドライン達成状況の相違」

第13回大会〔開催日・場所：2014年3月9日・天理大学体育学部キャンパス／総演題数：49題〕

- 伊地智敏晃（立命館大学大学院） 共同研究者：出村慎一，長谷川裕太，森嶋琢真，後藤一成
「間欠的な30秒全力ペダリング時の発揮パワーからみたスプリントトレーニングの効果」
- 川端 悠（金沢大学） 共同研究者：出村慎一，北林 保，内山応信
「視標追従テストによって転倒リスクをスクリーニングするための試み① —転倒経験群と非転倒経験群の比較—」
- 北林 保（東京理科大学） 共同研究者：出村慎一，辛 紹熙，内田 雄，坪内伸司
「健常高齢者の静的立位姿勢評価における有効な変数の検討」
- 金 美珍（筑波大学大学院） 共同研究者：辻大士，尹 之恩，大藏倫博
「地域在住高齢者におけるSarcopenia，Dynapeniaと身体機能との関連性」

○宮口和義（石川県立大学） 共同研究者：出村慎一，橘 和代，横谷智久

「幼児の静止立位重心動揺に及ぼす草履活用の影響」

【論文掲載巻頁：体育測定評価研究，第14巻，43-52頁，2015年3月発行】

○岡本直輝（立命館大学）

「鬼ごっこ運動の特徴—鬼を増やした場合の比較—」

○涌井佐和子（順天堂大学）

「特定健診受診行動に関する行動変容ステージと意思決定のバランス，健康行動との関連」

第14回大会【開催日・場所：2015年3月1日・石川県政記念しいのき迎賓館／総演題数：51題】

○阿部 巧（筑波大学大学院） 共同研究者：北濃成樹，大藏倫博

「ロコモティブシンドロームと関連する身体機能の検討」

○森山進一郎（日本女子体育大学） 共同研究者：金沢翔一，北川幸夫，宮地健人，柴田義晴

「競技経験のない一般女子学生のクロール泳における異なる速度による体幹筋活動の変化」

○中野貴博（名古屋学院大学） 共同研究者：春日晃章

「幼児における課題報酬型運動実践時の移動距離および活動状況の違い—体力・運動能力の差異による活動意欲の違いに注目して—」

○中谷敏昭（天理大学） 共同研究者：三浦重則

「活動筋の自覚的疲労感を用いたジャンプトレーニングが高齢者のNeuromotor fitnessに及ぼす影響」

○辻本健彦（筑波大学） 共同研究者：大久保善郎，藪下典子，大須賀洋祐，根本みゆき，金 泰浩，田中喜代次

「高齢者における歩行中の身体動揺と歩行速度との関連—転倒リスク別の検討—」

○横谷智久（福井工業大学） 共同研究者：出村慎一，宮口和義，野口雄慶，杉浦宏季

「幼児における選択反応時間と運動能力の関係」

第15回大会【開催日・場所：2016年2月28日・二松学舎大学九段キャンパス／総演題数：45題】

○宮本健史（法政大学） 共同研究者：林容市，高橋信二，速水達也

「青年期の垂直跳びにおける調整力と各就学年代の運動量との関係」

○尾山裕介（新潟大学大学院・猫山宮尾病院メディカルフィットネスCUORE） 共同研究者：村山敏夫，太田玉紀

「動的姿勢制御能力における前後重心移動の不均衡が不安定傾斜板上での立位姿勢に及ぼす影響」

○設楽佳世（国立スポーツ科学センター） 共同研究者：西牧未央，岡田朋子，山田亜沙妃，中里浩介，袴田智子，大西貴弘，池田達昭

「身体組成の評価方法間にみられる体脂肪率の誤差の検討」

○坂井智明（名古屋学院大学） 共同研究者：中野貴博

「健康づくりボランティア養成講座の効果—心理・社会的側面からのアプローチ—」

○長澤吉則（京都薬科大学） 共同研究者：出村慎一，高橋憲司，杉本寛恵

「最大握力が発揮力量の異なる局面の筋力発揮調整能に及ぼす影響及びその性差—中高年者を対象として—」

第16回大会【開催日・場所：2017年3月5日・ホルトホール大分／総演題数：50題】

○阿部巧（筑波大学，日本学術振興会） 共同研究者：薛載勳，城寶佳也，大藏倫博

「下肢の筋持久力は認知機能と関連するか？」

- 中野貴博（名古屋学院大学） 共同研究者：春日晃章，東健司
「運動の楽しさを感じる瞬間」の学年による違い」
- 坂口雄介（新潟大学教育学部） 共同研究者：小山清夏，原光希，四家千里，佐々木雅咲子，村山敏夫
「高齢者を対象とする交通事故抑止を目的とした運動機能評価について」
- 高橋利典（小谷田工業（株））
「等速性体幹筋力測定におけるピークトルク値補正方法の検討」
- 薬師葵（福井大学） 共同研究者：山田孝禎
「視空間認知機能評価のためのフライボール捕球テストの提案-測定値の信頼性および経験 種目差の検討-

第 17 回大会【開催日・場所：2018 年 3 月 3～4 日・愛知大学／総演題数：60 題】

- 原光希（新潟大学大学院） 共同研究者：村山敏夫（新潟大学）、四家千里（新潟大学大学院）、佐々木雅咲子（新潟大学大学院）、大島卓馬（新潟大学大学院）
「下肢運動機能に着目した課題レベルの違いが立ち上がり動作に及ぼす影響」
- 橋本泰裕（中京大学）
「歓声量から観客を興奮させるプレーを評価する」
- 石毛里美（順天堂大学大学院） 共同研究者：涌井佐和子（順天堂大学）、内藤久士（順天堂大学大学院）
「在宅脳卒中者における日本語版 the Activities-specific Balance Confidence Scale(ABC-J) と the Fall Efficacy Scale-International (FES-I) の運動機能及び精神的健康度識別力の比較」
- 近藤亮介（鹿屋体育大学） 共同研究者：國土将平（神戸大学大学院）
「立ち五段跳びの技能ステージ判定に有効な選択項目の検討-ニューラルテスト理論と共時等化法を用いて-」
- 寺田和史（天理大学体育学部） 共同研究者：中谷敏昭（天理大学体育学部）
「上肢による Stretch-Shortening Cycle 動作遂行能力の評価指標としての上肢 Rebound Jump-index の試行間信頼性及び基準関連妥当性」
- 山本貴大（岐阜大学大学院） 共同研究者：
「伏臥シャトルランテストを用いたラグビーフットボール選手の持久力評価」

第 18 回大会【開催日・場所：2019 年 3 月 2～3 日・札幌国際大学／総演題数：67 題】

- 後藤千穂（岐阜大学大学院） 共同研究者：春日晃章（岐阜大学）、中野貴博（名古屋学院大学）
「幼児期における体力の高低と非認知機能発達特性の違い」
- 板谷厚（北海道教育大学） 共同研究者：鹿野晶子（日本体育大学）、野井真吾（日本体育大学）
「把握運動条件反射法を用いた go/no-go 課題による高次神経活動型の自動判定」
- 越田専太郎（了徳寺大学） 共同研究者：石井孝法（了徳寺大学）、松田雅弘（城西国際大学）、橋本俊彦（首都大学東京）
「柔道受身動作の観察による頭部外傷リスク評価と頭頸部キネマティクスとの関連-競技経験のある柔道有段者と初心者の比較-」
- 沼田薫樹（鹿屋体育大学大学院） 共同研究者：濱田幸二、坂中美郷、村上俊祐、高橋仁大（鹿屋体育大学）
「項目反応理論を用いたバレーボールにおけるゲーム評価項目の困難度」
- 坂根裕美（京都薬科大学） 共同研究者：沼尾成晴（鹿屋体育大学）、長澤吉則（京都薬科大学）

「女子大学生における身体活動量と睡眠の質の関係」

○坂口雄介（新潟大学大学院） 共同研究者：村山敏夫（新潟大学）、亀岡雅紀（新潟大学大学院）、尾山裕介（桐蔭横浜大学）

「高齢者の道路横断時安全行動特性と筋応答の関連性」

○宿谷奈苗（札幌国際大学大学院） 共同研究者：小林秀紹（札幌国際大学）

「カーリングにおけるブラシの握り位置の違いがスウィープの圧力および速度におよぼす影響」

○梅村和弘（早稲田大学大学院） 共同研究者：矢内利政（早稲田大学）、永田靖（早稲田大学）

「TrackMan データを用いた機械学習手法による球種の分類とその特徴分析」

第20回記念大会【開催日・場所：2021年2月28日・オンライン／総演題数：67題】

○萩裕美子（東海大学） 共同研究者：安部健也，林倫照（NPO法人フィジカライン），山本直史（愛媛大学），正見こずえ（大阪産業大学），渡邊夏海（東京YMCA）

「オンラインによる健康測定並びにワンポイント指導の有効性の検討 ―対面方式に代わるものになり得るか―」

○板谷厚（北海道教育大学）

「幼児は園庭のどこでどのくらいの身体活動をしているのか？」

○角田憲治（山口県立大学） 共同研究者：藤井悠也（筑波大），相馬優樹（岩手県大），北濃成樹（明治安田厚生事業団），神藤隆志（明治安田厚生事業団），永田康喜（筑波大），大藏倫博（筑波大）

「地域在住高齢者における歩行量，自転車活動量と死亡リスクとの関連 ―Kasama Study における6年間の追跡研究―」

○齊藤寛英（新潟大学工学部） 共同研究者：亀岡雅紀（新潟大学大学院），村山敏夫（新潟大学）

「幼児の筋電図測定時の最大随意収縮発揮方法の検討 ―視覚フィードバックと競争を利用して―」

○佐野孝（かつらぎ町立渋田小学校） 共同研究者：國土将平（神戸大学大学院）

「特異項目機能（DIF）を用いた小学生の開脚跳びにおける動作困難度の性差および学年差の検討」

※掲載は研究代表者（演者）名のABC順でタイトルは研究発表時のものであり論文タイトルと異なることがある

以上

2021年3月3日更新